

「一心千里」

永田隆一

走って見えてくれば、
見えてくる



第88回

米カリフォルニア州シリコンバレーの企業に筆者が勤務していた時、「ブレイクスルー」という言葉が良く使われていました。ビジネスで様々な障害があるなかで、突破口を見つけて実績を上げることブレイクスルーと言っていました。

不可能と思われる成功を収めた時、その成功事例(サクセス・ストーリー)を分析します。皆が参加(インタラクティブ)して、成功要因をきっちり認識し合います。筆者は当時「まさに成功した『狩猟』の武器や狩りの方法を論じて合っているようです」とコメントしたところ、大いに受けたことを思い出します。

そして、その「成功した狩猟方法」を他のビジネスへ応用して、うまく行くかどうかを皆で見守ります。学生時代のクラ

持って判断した私たちは、その向上のために、資料や訓練の機会を圧倒する質と量で提供する組織へと変貌しました。

仕事は行動力を伴った洞察力

人生は「一期は夢よ、ただ狂え」

ブ活動のような臨場感、高揚感を感じて仕事を楽しんでいました。

「ブレイクスルーを起すためには、個人・チームにとってKSAが必要であるという普遍性に気付くことになりました。KSAは「ノレッジ」「スキル」「アビリティ」の頭文字です。知識とスキルはトレーニングできると、自信を

ただし、アビリティ(能力)は訓練できないということにも気付かされます。これは厳しい現実です。「能力は個人が身に付けている資質で決定される」ものなのであります。

能力が高い人材にリーダー、つまり部門長や新規事業を任せます。そして、知識とスキルを訓練されたスタッフをフォロ

ワーとしてチームを構成しました。ここで「能力とは何ぞや」という命題に自ずと取り組むことになりませう。

能力も多岐にわたります。地頭の良さ、コミュニケーション能力、お客様様の求める価値(技術や品質や生産性)への洞察力と発想力、組織内で経営幹部を説得できる論理力、目標達成を最短で執

行する行動力などでありませう。

筆者は、様々な成功事例と失敗事例を体で覚えることが基本です。お客様・競合・自社を冷静に分析すること。成功するための柔軟な発想。チームを引っ張るリーダーシップの発揮。スピード感をもって達成する行動力。すべてまとめて「行動力を伴った洞察力」と

考えました。

そういう人々には共通点があります。「いつでも徹底して、明るい。プレッシャーを楽しんでいる。どこでも、問題は全くない、解決できる課題があるだけと前向き。そして、なぜかしら、とても強運」。

《一期(いちご)は夢》
子供のころは、遊ぶのが好き、あれもこれもほしい。そして親や教師から、あれはダメ、あれはダメ、

それもダメ。これをしなさい、ああしなさい。矯正を着を身にまとい、先達の引いた、もっともらしいレールの上を歩いて成長していきます。塾に通い、受験を潜り抜け、就職試験を乗り切り、社会人となります。会社から「すべて重要な会議です。報道相が重要です。コンプライアンスが重要です。J-SOXで

すべて文章で残して下さい。でも、残業はしないで下さい。部下は叱らず褒めて伸ばして下さい。ルールだらけの社会で生きていきます。

昨年の筆者が聞いた、ポジティブでないフレーズです。「マザー牧場の羊の方が私より自由です」「軽井沢の野生の猿のほうが僕より生き生きしています」「木こりの松いさんの笑顔に憧れます。私は笑顔を忘れてしまいました」。

筆者は思います。それも良し。そこからのスタートであります。友人関係や思い出の断捨離などもお勧めです。新しい場所、景色、人に自分をさらすと変化が生じます。「一期は夢よ、ただ狂え」という言葉も真実かもしれません。しかし、真剣に打ち込まなければ自分の才能や夢中になれることに出逢えないかもしれませぬ。

(毎月連載)